

これがエダウチトクサ？

函館市 酒井 信

トクサは身近でありながら、まともな写真撮っていないのに気づき、撮影を意識しはじめた頃、山草会の標本採取依頼リストにエダウチトクサの名が目にとまった。近場を探索中、面白いものもなくトクサがあったので撮ろうと近づくと変わった形態のトクサの群落であった。これがエダウチトクサかと手持ちの図鑑など調べたが、“枝をつける型”、“まれに”、の記述で画像がない。この記述によれば、本種はエダウチトクサになるが、疑問点や経過観察が必要

な点もあり、今回はコメントを控え画像紹介にとどめる。

撮影地は函館の群生地で、図4のみ大沼公園（七飯町）である。春の観察後、2017年5月20日の観察では多くの孢子囊穂の枯死が始まっていた（図3）。図4以下は秋の観察時で、再度、孢子囊穂が多数見られた。その時の枝の出方の例である。枝は節につき、その個数や付き方は各時期ともさまざまな状態が見られる。なお、枝から出る枝は見えない。



図1 群落 (2017.4.22)



図2 2017.4.22



図3 孢子囊穂の枯死 (2017.5.20)

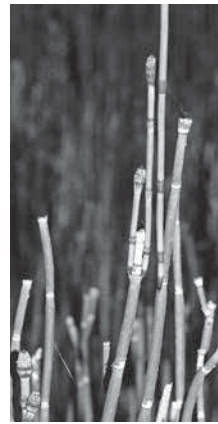


図4 茎頂の孢子囊穂が枯死脱落し、よく伸びた枝 (2017.9.4)



図5 2017.9.2



図6 2017.9.2



図7 2017.10.20



図8 枝の芽出し (2017.11.3)